



1・2「森の力京都」の工場は予約すれば見学可能 3久保さんは薪も販売。広葉樹は薪に、針葉樹はペレットに適しているそう 4ペレットストーブはいくつかの会社から色々な形の物が販売されている 5京都ペレットはスギやヒノキの間伐材が材料。粉碎した木材を乾燥・圧縮し、固める。接着剤や添加物は使っていない 6ペレットを燃料にしたピザ窯で実演販売する久保さん。安定した火力でおいしく焼けるそう 7・8ヒノコでペレットストーブの暖かさを体感。設置に関する相談も受け付けている 9久保さんは土の代わりにペレットを使って野菜栽培にも挑戦

◎ 森の力京都株式会社
 京都市右京区京北周山町小柳5-1
 ☎075-852-0010
<http://morinochikarakyoto.com>

◎ 京都ペレット町家ヒノコ
 京都市中京区寺町通二条下ル榎木町98-7
 ☎075-241-6038
<http://www.hibana.co.jp/>

京都ペレット (京都市右京区)

木材を粉碎した後、熱を加えて乾燥・圧縮し、円柱状に固めた燃料が木質ペレット。100%京都産の木材を使ったペレットが京都市右京区の旧京北町で作られている。

◎「地産地消」の燃料

周山しゅうざんのバス待合所で、炎の揺らぐ暖かいストーブに「京都ペレットを燃やしています」と説明が。コロコロした軽い燃料を手にとってみると、木の良い香りが漂ってくる。ペレットを作っているのは京北周山町の森の力京都株式会社。社長の久保和則さんに、工場を案内してもらった。

お父さんの代から、京北で林業を営んでいた久保さん。「北山杉や磨き丸太を扱う木こり、です。徐々に需要が減って、新しい展開はないかと模索していました」。そんな時、京都市が推進している木質ペレットの事業を知り、参入。「実は、環境についてはあまり考えていなかった。間伐材など単価の低い木材を使えるのが良いと思いました」

木質ペレットについて、一から学んで林業仲間とともに起業。市の協力も得て、2009年にペレット製造工場が完成した。「工場に使うボイラーもペレットを燃焼させて動かしています」。ペレットを作り始めてから、資源を循環させることの大切さを改めて知ったという久保さん。「林業従事者の減少もあって、人の手が入らず荒れている山も増えています。ペレットの需要が増えて間伐材が必要になれば、山林の再生につながるかもしれません」

◎街中でも火のある暮らし

公共の施設や店舗などでペレットストーブを見かけることはあるが、街中や一般の住宅での使用は？「ペレットは、ほぼ完全燃焼するので煙も出ず、底冷えのする京町家では重宝します」と言うのはアンテナショップ京都ペレット町家ヒノコの森あかねさん。「現代に合った木と火のある暮らしに触れられる場所を」と店にはペレットストーブの他、木炭や七輪、移動式ペレットグリルなども展示している。

「薪まきストーブや暖炉など、ぱちぱち燃える火の周りであったまるのって、憧れますよね」。もう少し簡単に火の暖かさを取り入れたいと、ペレットストーブの設置を検討する家庭も増えているそう。「森林の有効活用につながり、CO₂削減の効果も期待できるということも知ってもらいたいです」

久保さんもペレットを広めるため、イベントなどでの実演に力を入れている。「森を再生すると同時に、もっと多くの雇用を生み出して、京北を元気にするのが目標なんです」。ペレットの新しい活用法にも挑戦している。

